

幼児が身近な環境と豊かにかかわりあえる援助の工夫 ～「親子苗植え活動」を通して～

那覇市立金城幼稚園教諭 渡久地 順

テーマ設定の理由

幼稚園教育要領第1章総則1 幼稚園教育の基本の中に「幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」とあり、環境を通して行う幼稚園教育の特徴が記されている。幼稚園教育における環境とは、人、もの、自然等、身の回りのあらゆる事象を指し、それらが相互にかかわりあいながら幼稚園生活は成り立っている。

幼児にとって幼稚園は、教師との信頼関係を基盤にしながら、遊びを中心として友達と集団生活を送る場であり、家庭は、家族から十分な愛情や思いやりを受けて安心して過ごせる心の基地だといわれている。幼児が充実感をもって意欲的に活動に取り組むためには、保護者や教師等、身近な人に温かく見守られているという安定した気持ちで過ごすことが基盤となり、そのためには、幼稚園と家庭とが連携をとりながら子育てを展開していくことが大切である。

また、幼児が身近な環境にある様々なものに対して積極的にかかわろうとする態度は、身近な自然や事象等に対して感動を覚え、もっとかかわりたいと思う経験をすることから生まれる。そして、その感動を周りの友達、教師、親にも伝えたいと思い、そこで共感してもらえることによって幼児の心は安定し、自分から進んで、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。

本園では、毎年12月に修了式に向けて「親子苗植え活動」を行っているが、幼児は、教師の準備した花の苗を親と一緒に植え、その後は水やりを続けるということが中心となっていた。園行事中心の単発的な活動であったため、幼児が自然の事象に自分から進んでかかわり、発見を楽しんだり、考えたりすることが少なかった。また、身近な人に自ら進んでかかわったりすること等も弱く、身近な環境に豊かにかかわりあえる幼児を育成するためには、活動の見直しが必要だと考える。

つまり、幼児が進んで人、もの、自然等の身近な環境と豊かにかかわりあえるためには、興味・関心、好奇心を広げ、探求心を深めていけるような環境の構成を工夫すると共に、幼児が覚えた感動や発見を共感できる場を工夫する等が大切である。

そこで、「親子苗植え活動」において、事前の活動から3月までの一連の活動を計画・工夫し、人と豊かなかかわりをもちながら、身近な事象に対する幼児の興味・関心、好奇心を広げ、探求心が深まるような援助のあり方を研究したいと考え本テーマを設定した。

研究目標

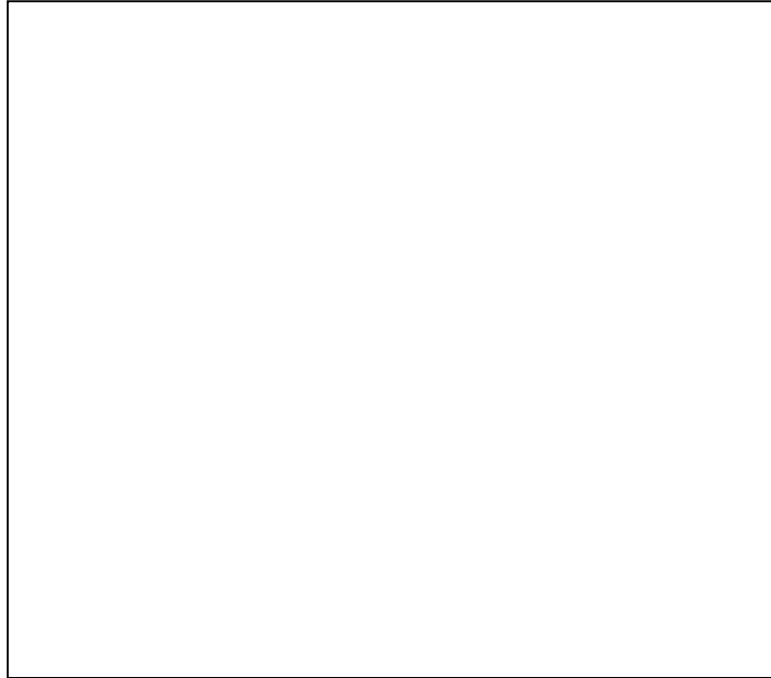
「親子苗植え活動」を通して、幼児が人、もの、自然等の身近な環境と豊かにかかわりあえるような援助の工夫について研究する。

研究の方針

- 1 「親子苗植え活動」を幼児をとりまく身近な環境とのかかわりを大切にしたい一連の活動として計画し、人、もの、自然等に対し興味・関心を広げ、愛着心を抱くことができるような援助を工夫する。

- 2 家庭との連携を深め，幼児のよさを家庭に伝え，家族で共感できる場が持てるようにしたり，園と保護者が協力しあえるように学級通信を発行する。

研究構想図



研究内容

1 幼児が身近な環境と豊かにかかわりあうとは

(1) 幼児にとっての身近な環境とは

幼児にとっての身近な環境とは，人，もの，自然等の幼児をとりまくいろいろな事象のことである。

人とは，幼児本人をはじめ，友達，保護者，教師，地域の人等，幼児の身の回りに存在するすべての人的環境である。ものとは，保育室，滑り台，ブランコ，積木，クレヨン，紙，粘土，文字や数字，情報機器も含めた遊具や用具等，幼児の身の回りに存在するすべての物的環境である。自然とは，草花，昆虫，動物等，幼児の身の回りに存在するすべての自然環境のことである。

それぞれが個別に存在するのではなく，人，もの，自然の要素が絡みあって作用することが幼児にとって大切であり意味があるものとなる。

(2) 環境と豊かにかかわりあうとは

環境と豊かにかかわりあうとは，幼児が身近な環境に興味・関心を抱き，それにかかわらずにはいられないという思いをもち，次々と活動を展開し，充実感や満足感を十分感じていることである。

幼児が身近な環境に対して，豊かにかかわろうとする態度は，身近な人とのかかわり，ものとのかかわり，自然とのかかわりの中で，感動を覚え，好奇心を抱き，更にどうすればもっと面白くなるだろうかという探求心をもつ経験することから生まれる。また，幼児はその覚えた感動等を，周りの友達や教師，保護者にも伝えたいと思い，そこで共感してもらったり，楽しさを共有してもらえることによって，環境に親しみや愛情を感じ，も

っとかわりたいたいという思いが強くなっていく。

教師は、幼児が主体的、積極的に活動し、充実感や満足感を感じ、環境と豊かにかかわりあうために、幼児の興味・関心の対象、意欲の程度、これまでの経験等、様々なことを考慮することが必要である。更に、幼児がどのような活動の中でどのような体験ができ、どのような育ちが期待できるのかを十分検討しながら、適切な援助をしていくことが重要である。

2 家庭とのよりよい連携

(1) 家庭との連携の重要性

幼児の生活は、家庭、地域、そして幼稚園と連続的に営まれるものであり、それが切り離されて存在するものではない。幼児の家庭や地域社会での生活経験が、幼稚園において教師や他の幼児と生活する中でさらに豊かなものとなり、幼稚園生活で培われたものが、家庭や地域社会での生活に生かされていく。このような循環の中で幼児の望ましい発達が図られていく。園生活を考えるにあたっては、幼児の生活の循環性を考慮することが大切である。

また、幼児は信頼する人の考え方や行動の仕方を自分の中に取り入れ、大きな影響を受けるといわれている。そのため、幼児は保護者の感情や、生活態度に影響されることが大きく、保護者の幼稚園や教師に対する信頼感を高めれば、幼児も幼稚園や教師を信頼し、幼稚園での生活を安心して意欲的に過ごすことができるようになる。

つまり、保護者や教師をはじめとする周囲の人々に温かく見守られているという安定感をもつことによって、自己を発揮し、充実感をもち意欲的に活動を広げていくといわれている幼児期において、幼稚園と家庭とが連携を図りながら子育てを進めていくことは必要不可欠であり重要なことである。

文部科学省通知「幼児教育振興プログラム」(平成13年)においても、地域社会の中で家庭と幼稚園等が十分な連携を図ることや、親と子の育ちの場としての幼稚園の役割や機能等について述べられている。これは、これからの幼稚園が幼児だけでなく、幼児と保護者が共に育ちあう場としての役割を担っていることや、より家庭との連携を図っていかなければならないことを示している。

(2) 家庭とのよりよい連携を図るための学級通信の発行

家庭との連携の重要性をふまえ、保護者とのコミュニケーションを図っていくことは、保護者自身の安心感や幼稚園に対する信頼感を高め、よりよい保育へとつながる。そこで、次のことをねらいとして学級通信を発行する。

- 保育のねらいや教師の思い等を伝えることによって、園や教師に対する理解を図る。
- 幼稚園での幼児の活動や様子等を知らせ話題を提供することにより、家庭での会話につなげ、保護者が幼児の思いを受け止め共感できるようにする。
- 保育参観・参加のねらいや視点、活動の流れ等を事前に知らせ、当日に充実したかわりがもてるようにする。
- 幼児一人一人のよさを伝えることによって、クラスの多くの保護者が積極的に幼児に声をかけ、かわりを広げるようきっかけ作りをする。
- 保護者の声を全体に広めたり、学級経営等に反映させるために、保護者に思いや願い・感想・意見等を求め、それを学級通信に掲載する。

4 「親子苗植え活動」について

(1) 研究テーマとのかかわり

「親子苗植え活動」は、本園で毎年 12 月に行われている園行事である。活動の主な内容は、親子で花の苗を二鉢植え、それを幼児が 3 月の修了式まで育てるというものである。

大きく成長し咲いた花は修了式の式場を彩り、その後一鉢は、今まで大切に育ててくれた保護者へのプレゼント、もう一鉢は、次年度入園してくる新入園児へのプレゼントとして使う。

今までの活動を振り返ると、幼児は教師が準備した花の苗を保護者と一緒に植え、その後は水やりを続けるということが活動の中心となっていた。園行事中心としての単発的な活動であったため、幼児が進んで身近な人、また、草花や昆虫等の自然の事象と、豊かにかかわり、自分から進んで、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れるまでには至らなかった。

しかし、「親子苗植え活動」は、適切な援助をすることによって、幼児と保護者だけのかかわりに留まらず、幼児同士、友達の保護者、保護者同士、教師と保護者、地域の人とのかかわりにも発展できる活動である。また、自然の事象に対して、興味・関心を広げ、自分から進んで、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れる力を育むために適した活動だと考える。

それ故、今までの反省を踏まえ、一つ目に、この活動を身近な環境と豊かにかかわりあえる一連の活動として計画・工夫し、環境構成の工夫や個に対する援助の工夫を図る。二つ目に、保護者が幼児の様子を知り、幼児のよさを感じ、認め、共感できるように、家庭との連携を充実させる。そのことにより、自ら進んで、人、もの、自然等の身近な環境にかかわる力をもつ幼児が育つものと考ええる。

今回、人とかかわりとしては、主に友達、保護者、教師、地域の人（花屋）、ものとかかわりとしては、主に本や図鑑を読んだり、植木鉢に絵を描いたり、牛乳パックのカバンや折り紙の財布の製作等、自然とかかわりとしては草花や昆虫等に親しんだりすることと捉えた。

(2) ねらい

- 身近な人とかかわることの楽しさを知り、親しみを感じ、愛情や信頼感を深める。
- 草花や昆虫等の身近な自然に親しみをもち、自分から進んで、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- 幼児の発見や活動の様子等を保護者に知らせ、幼児のよさを認め励ましあえるようにする。

(3) 期間

平成 15 年 11 月～平成 16 年 3 月

(4) 活動計画と援助の工夫

身近な環境と豊かにかかわる力をもつ幼児を育てるために、「親子苗植え活動」を計画・工夫し、その中で、援助の工夫として環境構成や個に対する援助を表 1 のように考えた。

表1 活動計画と援助の工夫

活動計画	ねらい	環境構成の工夫	個に対する援助の工夫
お花の絵本読んでみよう！ 教師と一緒に草花や昆虫, 買い物に関する絵本コーナーを作る	○ 草花や昆虫等の自然に興味・関心をもつ。 ○ 買い物活動に期待をもつ。	○ 教室の月刊誌等を置いている絵本コーナーとは別に, 幼児の目につきやすいように, 草花や昆虫に関する絵本や図鑑, 買い物に関する本を中心としたコーナーを作る。 ○ 活動の時期に応じた内容の本を読み聞かせする。	○ 幼児の思いに応え, 幼児の好きな絵本の読み聞かせをする。
レッツゴー フラワー探検隊！ フラワー探検隊を結成し, 園庭を探検する	○ 園庭のいろいろな場所にいろいろな草花が咲いていることに気づく。 ○ 草花の形や色, 大きさ, 香り等の違いや美しさ等に気づく。 ○ みんなで一緒に活動する楽しさを感じる。	○ 教師が探検隊長に変身する。 ○ 幼児が見つけた花をデジタルカメラで撮影し, 画像をテレビに写してみんなで見る。 ○ デジタルカメラで撮影したものをプリントし, 掲示コーナーを作る。 ○ 三つのコルクボードを用意し, 幼児の分けたい視点で写真を貼り, 掲示コーナーを作る。 ○ フラワー探検隊は, 年間を通して行い, 季節によって変化する草花の違いや美しさを感じ取らせる。	○ 活動に参加しようとしめない幼児には声かけをしたり, 楽しい雰囲気を感じさせながら自然に対する興味・関心をもたせたり, 友達と一緒にみんなで遊ぶことの楽しさにも気づかせるようにする。 ○ 幼児の気づきや発見に共感し, それをクラスのみんなんにも知らせ, 認めあう場をつくる。
心を込めて描いてみよう！ 園庭や本で見た花を, イメージ豊かに鉢に描く	○ 好きな花, 絵本で見たことのある花等をイメージ豊かに表現する。 ○ 思いや願いを込めて描き, 自分の物として大切に扱う気持ちをもつ。	○ 絵を描くコーナーを作る。(油性マジックの準備。花の絵がきれいに描かれている絵本等展示する) ○ 白い無地の植木鉢を一人二鉢準備し, 幼児が自分なりの表現で描けるようにする。	○ 入園当初から, 絵を描くことに抵抗を感じている幼児が二人いるが, 無理に描かすようなことはせず, 心の微妙な動きを捉え援助していく。 ○ 一人一人の活動を認め, 共感し, それを他の人にも伝える。
お花の苗を買いにレッツゴー！ 地域の花屋へ苗を買いに行き, 自分で選び購入する	○ 自分の花という思いや, 苗を大切に思う気持ちをもつ。 ○ 地域の人(花屋)とのかかわりをもつ。	○ 幼児が歩いて行ける距離の花屋を選定する。(雨天の場合は, 園に来て販売してもらう) ○ 12月に植えて3月に咲く花の選定する。(園や花屋と相談する) ○ 花屋では, 50円の苗を二つ買うという設定で, 幼児が自分で苗代(100円)を払うようにする。(差額は, 後で教師が支払う) ○ 両替をしておく。	○ 地域の花屋へ行き, 自分で好きな花の苗を選んで, 代金を支払い, 苗を購入させるという幼児主体の活動とし, 一人一人の気持ちや思いを大切に受け止めるようにする。
みんなのいいところみつつけよう！ これまでの活動を映像で振り返る (検証保育)	○ 自分や友達のよさに気づく。 ○ 保護者が自分の子や他の子の様子やよさを知り, かかわりを広げる。	○ プレゼンテーションツールを使って作成したスライドは, 幼児の活動の様子や幼児の変容が見られる内容に編集する。	○ 一人一人の幼児の頑張りや変容を保護者, 友達, 友達の保護者に伝え, 共感する場を持つことによって, 自信につなげ, 活動に対する意欲を高める。
みんなで大切なお花を植えよう！ 親子で苗植えを楽しむ (検証保育)	○ 草花に対する親しみや愛情をもつ。 ○ みんなで一緒に目的に向かって活動する楽しさや喜びを味わう。	○ 幼児も保護者も全員で楽しめるようにゲームを工夫する。 ○ いろいろな人と一緒に活動できる場をつくる。 ○ 大型タライを二つ準備し, 幼児と一緒に土作りをしておく。(腐葉土: 培養土 = 1 : 3)	○ 幼児の保護者に対する感謝の気持ち, 一緒に活動できるうれしさや喜びに共感する。 ○ 保護者が来ていない幼児の寂しい気持ちを十分に受け止めかわるようにする。 ○ 丁寧にやさしく植えている姿を捉え共感し, それを他の幼児や保護者にも伝える。

フラワーカードを作ろう! 摘芯した花びらを使ってカードを作る	○花を大切に思う気持ちをもつ。	○摘芯のために摘み取った花を、ラミネートするコーナーを作る。 ○自分なりの表現で作れるように、ピンセット、リボン、油性ペン等を準備する。	○幼児に、摘芯する意味（修了式にあわせて咲かせるため）を丁寧に伝える。また、大切に育てている花を摘み取らなければならなくなってしまった幼児の気持ちを受け止める。
みんなで花祭りを開こう! クラスで花祭りを楽しむ	○大切に育ててきた草花の成長や花がきれいに咲いたことをみんなで喜びあう。 ○花祭りをみんなで楽しむ。	○花に関する歌を集めた“フラワーソングコーナー”を作る。 ♪花祭り・はなさきやま・世界に1つだけの花等♪ ○教師も幼児と一緒に、歌にあわせて、リズムダンスを考える。 ○自分達で考えて、紙芝居やペープサート等が製作できるようにコーナーを作る。 ○プログラムをみんなで考える。 ○育てている花や幼児が描いた花の絵等を教室に展示する。	○“やってみたい、作ってみたい”という、一人一人の思いを丁寧に受け止めながら、活動を進め、発展させる。 ○一人一人の活動を認め、共感し、それをクラスで伝える。また、学級通信でも紹介しながら、意欲や自信につなげる。
心を込めて花のプレゼントをしよう! 保護者や新入園児のために花のプレゼントを作る	○身近な人に親しみを感じ愛情を深める。	○メッセージを書くコーナー、ラッピングをするコーナーを作る。 ○出来上がった作品をクラスで紹介したり展示する。	○絵や文字で表現したり、折り紙で飾りを作ったりと、自由に表現していいことを伝え、教師は幼児の思いを大切に受け止めながら、満足感や達成感が味わえるように進める。 ○工夫しているところ、心を込めて一生懸命作っている様子等をクラスで紹介し、また、保護者には学級通信を利用して伝え、一人一人のよさ認め賞賛し、意欲や自信につなげる。

検証保育

1 幼児観

1学期に個人鉢にフウセンカズラを植えたり、花壇やプランターにトレニヤ、マリーゴールド等、みんなで花を植えてきた経験をもつ。しかし、最初は意欲的に水やり等をする姿も見られたが、日が経つにつれて興味・関心は薄れ、教師の声かけがないとなかなか水やりもやらなくなっていた。また、せみやバッタ等の昆虫が好きな幼児が大半であるが、捕まえてきた昆虫を物のように扱い、いたずらに命を奪ってしまったり、世話をせず死なせてしまうこともあった。幼児の心の中に、草花や生き物をいたわったり、大切にしようと思う心の育ちがまだ弱いようである。

人とのかかわりについては、仲の良い友達とは楽しく遊ぶことができるが、他の人へ新しいかかわりを求めたりする姿は少なく、幼児の中に、かかわりを広げたり、深めようとする育ちがまだ弱いようである。

そこで「親子苗植え活動」を通して、園庭の草花や昆虫とのかかわりを深め、それらとの豊かなかかわりあいから、草花や昆虫にも、命があり、生きている、成長しているということに気づかせたい。そして、自分から進んで発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする力をもった幼児に育てたい。また、みんなで一緒に活動する楽しさを味わいながら、かかわりを友達の保護者、更に地域の人に広げ、身近な人とのよりよい関係を築き、愛情を感じながら、様々な活動に意欲的に取り組めるような幼児に育てたい。

2 保育観

事前の活動の中で、幼児は身近な人や自然に対して興味・関心を高め、積極的にかかわるようになってきた。特に、花の苗に対しては、大切に思う気持ちが育ち、それを大好きな保護者と一緒に植えることへの期待が高まってきている。

そこで、今までの活動の様子をプレゼンテーションツールを使って作成したスライドで振り返りながら、一人一人のよさに気づかせ、そのよさに共感したり、自ら選んだ花に対する気持ちを思い起こさせるようにする。また、幼児が保護者、友達、友達の保護者等とのかかわりが多くもてるような環境構成を工夫し、ねらいにせまりたい。

3 保育展開案

(1) ねらい

草花に対する親しみや愛情をもつ。

みんなで一緒に目的に向かって活動する楽しさや喜びを味わう。

(2) 内 容

自分の思ったこと、感じたことを伝えながら花の苗を植えることを楽しむ。

(3) 具体的な手立て

ねらい に対する手立て

これから行う苗植え活動に対して期待を高めるために、花に関する本の読み聞かせをしたり、「花さきやま」を歌う。

ねらい に対する手立て

今までの活動の様子等をスライドで見せることにより、幼児にとっては自分のよさや友達のよさを気づかせ、保護者には自分の子どものよさだけでなく、他の幼児にも目を向けさせ、そのよさを気づかせる。また、幼児の自分で選んだ花に対する思いを引き出し、丁寧に植える気持ちをもたせる。

ねらい に対する手立て

○かかわりが広がり、よりよい関係を築くきっかけになるように、名札を使ったゲームをする。

○多くの友達や保護者とのかかわりが生まれるように、花の苗を植える場の工夫をする。
(個々の活動にならないように、クラス全体を二つのグループに分けて活動させ、グループ間での交流を図る)

○自分や友達等のいいところに目を向け気づかせるために、今日の活動を振り返り、思いや感想等を発表し伝えあう場を作る。

(4) 保育の視点

○幼児が花の苗を大切にし、やさしく丁寧にしかかわる気持ちをもっているか。

○幼児が保護者、友達、友達の保護者と活動を進めていく中で、会話を交わしたりしながら、一緒に活動を楽しんでいるか。

(5) 展開案

生活の流れ	場所	幼児の活動	保護者の活動	教師の援助
8:15 登園する	教室	登園する。		○視診しながら幼児一人一人の心身の状況を把握していく。
	園庭	教師と一緒に苗植えの準備をする。(土、スコップ等を準備し並べる) 園庭の草花への水やり。(毎日の活動)		○幼児と一緒に準備することで、今日の活動への意欲をもたせる。また、その頑張りを賞賛する。 ○一緒に水やりをしながら、花や虫に対する気づきや発見に共感する。
8:45 朝の集まり	教室	教室に集まって座る。教師の近くに座って、読み聞かせを聞く。		○いろいろな色に咲く、鮮やかできれいな花の様子をイメージできるように「にじいろのはな」の読み聞かせをする。
8:50 保護者受け付け	教室 入口	保護者を迎え、あいさつを交わす。	・受け付けをする。 ・名札をつける。	○保護者と一緒に苗を植える喜びを感じさせ、活動への期待を膨らませるように声をかける。
9:00 「親子苗植え活動」オリエンテーション	教室	保護者が座った椅子の前に移動する。 “みんなともだち”ゲームをする。 (時間内に多くの人に名札を見せ、あいさつを交わし、握手していくゲーム) 歌をうたう。 ♪はなさきやま♪ 今までの活動の様子のスライドを見る。 (10分程度) スライドの感想等を発表する。 今日の活動について話しあう。	・教室へ移動し幼児の後ろに座る。 ・ゲームに参加する。 ・幼児と一緒に歌をうたう。 ・幼児の事前の活動の様子をスライドで見る。 ・スライドの感想等を発表する。 ・保育のねらいや視点、幼児とのかかわり方についての説明を聞く。 ・活動の流れについて聞く。	○幼児と保護者、保護者同士、教師と保護者のかかわりの場が広がるように、保護者に名札をつけてもらい、ゲーム“みんなともだち”を行う。 ○保護者が来ていない幼児の気持ちを十分に受け止める。また、他の保護者と一緒にゲームや歌に参加するように声をかける。 ○やさしい気持ちになって花を植えてほしいという願いを込めて、親子で向かいあって歌わせる。また、親子で楽しく歌えるように学級通信で歌詞等を知らせておく。 ○幼児のこれまでの活動の様子や変容をスライドにして見せながらよさを伝える。(全員の様子が分かるように編集する) ○親子、友達との会話がはずむように画面の切り替えのタイミング等にも配慮する。 ○感想等を幼児や保護者に発表してもらう。
9:30 「親子苗植え活動」開始	園庭	いろいろな人とのかかわりあいながら、苗植えをする。 植えた苗を職員室の前に並べる 職員室の前に並べた鉢をみんなで見る。	・いろいろな人と話したり、相談しながら苗植えをする。 ・並べた鉢をみんなで見る。	○親子同士が多くのかかわりがもてるように、二つのグループに分け活動させる。 ○発泡スチロールを入れた箱一つ、タライ二つ準備し、それを囲んで活動でき、お互いがかかわりあえるような場を作る。 ○大切な花を植え終えた充実感や満足感を感じるように、幼児の思いに共感しながら、並べられた鉢をみんなで見る。
10:00 ・片付け ・おやつ ・感想等の発表	教室	片づけをする。 おやつをいただく。 今日の活動や今までの活動を振り返り、感想等を話す。 (いいところみつけた!)	・一緒におやつをいただく。 ・今日の活動を振り返り、感想等を話す。	○幼児や保護者から、いろいろなよさ(いいところ)を引き出す。 ○みんなで語りあえる場を持つ。 ○家庭に帰ってからも、今日の活動を話題にするように声をかける。
10:30		検証保育終了		

結果と考察

1 結果

(1) 検証保育までの活動と幼児の育ち

活動内容	教師の援助（声かけ）	幼児の育ち
教師と一緒に草花や昆虫，買い物に関する絵本のコーナーを作る。 草花や昆虫等に関する本を読んだり，教師の読み聞かせを聞いたりする。	○ 幼児と一緒に，相談しながら場所や配置を決め，草花や昆虫等，自然に関する絵本や買い物に関する絵本のコーナーを作る。 ○ 草花や昆虫に興味をもたせるために絵本の読み聞かせをする。 ・ にじのはなさせよう ・ にじいろのはな ・ ちょうちょくるかな ・ くさはらドン ・ ポットくんのおしり ・ かばくんのおかいもの 等	きれいな花やかわいい昆虫の絵が描かれている本を見て，幼児が，「先生，この本読んで！」とせがんできたり，絵本を手にとったりと，興味・関心を示していた。 草花や昆虫に興味・関心を抱きながら，自分の好きな本，読んでほしい本を見つけ，友達同士で読んだり，先生と一緒に読んだり，人とかかわりも生まれていた。
フラワー探検隊を結成し，園庭を探検しながら花を見つける。 見つけた花を教師にデジタルカメラで撮ってもらう。 画像をテレビに写しみんなで見る。 プリントした写真を見ながら，大きなサイズのコルクボードに貼る。 三つの小さなサイズのコルクボードに花の写真の色，形等，幼児の視点で仲間分けする。	○ 興味・関心を引きつけるために「フラワー探検隊」と銘打って，園庭を探検する。（教師が探検隊長に変身） ○ 探検への興味・関心を広げるために，玄関前に探検基地コーナーを作る。 「今日はみんな探検隊になって，お花探しに出発だ～！」 ○ 園庭に咲いているいろいろな花に気づき，感動している姿を受け止め共感する。 ○ 活動に参加しようとしないうちの幼児には，声かけをしたり，楽しい雰囲気を感じさせたりしながら興味・関心を引きつけるようにする。 ○ 今日の活動を振り返り，花を見つけたことへの喜びを感じさせるために，デジタルカメラで撮影したものをテレビに映してクラスみんなで見る。 ○ 幼児と相談しながら写真を掲示する。 ○ 花の色，形，大きさ等を比べ，仲間分けしながら掲示の仕方を一緒に考える。 「おうちがせまくなっているね！どんな風に分けたらいいかな。いい方法あるかな？」（小さなコルクボードに分ける時）	探検隊というネーミングが興味・関心を喚起したようで「早くやりた～い！」と意欲的な幼児の姿が見られた。 花壇に咲いている花，プランターに植えている花，地面に咲いている花，普段あまり気がつかない土手の隅っこに咲いているような花等，園庭のいろいろな場所に目を向け，花を一生懸命探す姿が見られた。 テレビに映し出される画像を見て，「私が見つけた花だ～！」と自分が見つけたことを喜び，更にそれをみんなの前で紹介され，認め，賞賛されたことで自信につながっていた。 園庭で見つけた花を，画面で見ながらみんなで一緒に数えると47種類（重複して数えているものもある）の花が咲いていることに気づいていた。また，自分達が数多く探し見つけたことへの満足感をもち，更に種類の多さに驚いていた。 サイズの違う小さなコルクボードを見て，「お花のための三つのお部屋を作ろうよ！」と幼児同士で試行錯誤したり，相談したりしているうちに「色で分けてみよう」という考えが生まれた。
		 写真1 フラワー探検隊の様子
鉢に園庭や本で見つけた花の絵を描く。	○ 目的意識をもつて活動できるように，なぜ，鉢に絵を描き，花の苗を植えるのかということを幼児に丁寧に伝える。 ○ いろいろな花をイメージできるように声かけをする。 「探検で見つけた花，絵本に出てきた花，図鑑に載っている花，自分の大好きな花を描いてみて下さい！」 ○ 作品を他の幼児も見ることができるよう教室に展示する。	なぜ，絵を描いたり，花の苗を植えるのかを教師が丁寧に伝えることによって，幼児の意識に変化が見え，夢中になって描きはじめ，一人一人が意欲的に活動するようになった。 友達が楽しく意欲的に描いている様子やきれいに仕上がり飾られた作品を見て，絵を描くことに苦手意識がある幼児が，自分から進んで描き始める姿が見られた。 「ばくお母さんのためにきれいなお花を描くよ」と，母親への思いを込めて描く幼児がいた。

クラス毎に地域の花屋へ苗を買いに行き、自分で選び購入する。(雨天の場合は、園に来てもらう) 幼児が実際にお金(花の苗代)を支払い、お店で買い物活動をする。	○地域に目を向けさせるために幼児に、幼稚園の近くに花屋がないか探すようにと声をかけておく。 ○買い物への期待を広げるために、牛乳パックを使い、苗を入れるバックを作らせる。 ○幼児にお金の大切さを感じさせるために、お金は自分で持たせる。また、お金は、折り紙を使って作った財布に入れさせ、出発前に園で配る。 ○幼児が花の苗を自分で選び、自分でお金を払い、購入させることによって、活動に主体性をもたせる。 「今日は、好きなお花を自分で選んで、自分でお金を払って買って下さいね!」 ○花屋にいろいろな色や種類の花の苗を準備してもらい、幼児が自分で好きなものを選ぶようにしておく。その中から二つ選ばせて購入させる。 (ペゴニア、ナデシコ、ペチュニア、インパチェンス、デージー等) ○50 円の苗を二つという設定で、100 円を支払わせ、苗を購入させる。 (残金は園で一括して精算する) ○園外に出るので安全に十分配慮する。 (けが・交通事故・不審者等)	花屋さんを見つけるように声をかけると、「○○の近くにあるよ」「うちの近くに見つけたよ」等、身近な地域の様子に興味・関心をもつきっかけになった。 自分で作った、財布やバックを持ち、更に本物のお金を預かって、花の苗を買いに行くということで、幼児の興味・関心、期待はとても高まっていた。また、バックや財布の制作も全員が意欲的に集中して活動していた。 自分で選んで、自分で買うという活動で、「赤いお花がいいかなあ、白いのがいいかな、いいにおいがするからこれいい」等、熱心に花の苗を選ぶ姿が見られた。そのような姿から“自分の花”という思いが生まれ、それを大切にしようという気持ちが芽生えているのが読み取れた。苗の代金を払ったりする活動で、店員と会話を交わしたりしながら、園の近くにある地域の“花屋さん”として親しみを感じていた。 園へ戻る帰り道でも、苗が傷つかないようにと、大事そうに両手で抱えて持っている姿が見られ、自分の花だという思いをもち、大切に扱っていた。
全員でゲームをする。 親子で苗植え活動に関するスライドを見る。 二つのグループに分かれて苗植えをする。 思いや感想等を発表する。 (いいところみつけた!)	○事前に学級通信で活動の内容やねらい、当日の流れ等を伝えておく。 ○幼児と保護者、保護者同士が仲良くなるきっかけを作るために、保護者にも名札をつけてもらい、名札を使ったゲームをする。 ○保護者が来ていない幼児の気持ちを受け止め配慮する。 ○スライドを見せ、これまでの活動を振り返ることで、お互いのよさに気づき、会話が生まれ、かかわりあい広がるようにする。また、花に対する思いを引き出し、丁寧に植える気持ちをもたせるようにする。 ○自分のために来てくれた保護者への感謝の気持ちをもち、一緒に活動できる喜びに共感する。 ○かかわりあい広がるように、2つのグループに分けて活動させる。 ○丁寧にやさしく植えている姿を捉え、共感し、それを他の人にも伝える。 ○みんなのよさに気づかせるために、今日の活動を振り返り、思いや感想等を伝えあう場を持つ。	名札を付けたことで、あいさつや会話も増え、幼児も保護者もお互いにかかわりあおうとする姿が見られた。全員が参加するゲームを取り入れたことにより、笑顔や会話も増え、幼児だけでなく保護者の気持ちもリラックスさせ、かかわり合いが広がった。 スライドを見ることで、親子や友達、友達の親とも会話が増え、かかわり合いが広がっていた。また、自分達の活動を映像で振り返ることで、花を大切にしようという思いが高まっていた。 花の苗を、やさしく丁寧に植えている親子の姿を捉え、その様子を他の親子にも伝えることで、多くの親子がよりやさしく丁寧に植えようとする姿が見られた。 写真2 親子苗植え活動の様子 「楽しかった、3月まで育てる」と、幼児から感想が出る等、よさや感想等を発表し伝えあうことで、友達の新しいよさや頑張り気づいたり、自信にもつながっていた。

(2) 保護者の声からみる幼児の育ち

前日から「お菓子 においのする苗なんだよ」と楽しみにしていました。日は、テキパキとしている姿に「しっかりしてきなぁ・・・」と成長を感じました。 「す。」	もと一緒にやりながら、土を入れ	
苗植えの話をしながらずっと笑っていました。家にはない大切な時間を過ごせたことを、すごくうれしく思いました。		親と子の触れあいができてとてもよかったと思います。子ども達も花の命の大切さを
	写真3 感想を話している様子 (いいところみつけた!)	苗の買い物のスライドに感動、1時間以内で牛乳パックのバック、折り紙のサイフを作ったのに感動しました。
子どもが、びっくりする程手順を覚えていて、土の入れ方、苗を入れるタイミングと手際よく教えてくれました。子どもに教えてもらっての共同作業等、有意義に過ごすことができました。お仕事の保護者もいらっしやと思いますので、日程調整は難しいですね。	自分達で花を買い、親子で一緒に花を植え、思い出にもなり、花を大切に扱い、育ててくれるでしょう。はじめて親子共同で、何かをし終えたので、私(保護者)自身もよかったです。 でも、何か物足りない気がしました。	

2 考察

(1) 活動の計画・工夫及び援助の工夫

絵本コーナー作りやフラワー探険隊で、草花や昆虫等の自然に対する興味・関心を抱かせ、それが広がるような援助をしてきた。そして幼児が抱いた興味・関心を大切に受け止めながら、鉢に絵を描く活動、花の苗を買いに行く活動へと活動に流れをもたせ進めていった。更に、鉢に絵を描く活動や花の苗を植える活動等では、幼児にその活動の意味や意義を丁寧に伝えるようにした。

普段の保育では、「鉢に絵を描こう」「花を植えよう」というように単発的な保育になってしまったり、活動することに重点が置かれ、幼児がその意味や意義を理解しないままに活動をしてしまうことがある。しかし、今回は、「親子苗植え活動」を長期の活動として見直し、計画・工夫することで、幼児が主体的に活動できる環境構成が図られ、活動に一連の流れを持たせたることができた。そのことが、幼児が興味・関心を持続させ、目的意識をもち、意欲的に活動することにつながったと考える。

また、教師の思いや願いだけで活動を展開させるのではなく、個々の育ちを丁寧に捉え、幼児一人一人の思いや願いを大切に受け止めながら援助した。それによって、花の写真をコルクボードに貼り分ける活動では、幼児はどのように花の写真の部屋を作ったらいいのか試行錯誤を繰り返し「色で分けてみよう」という考えが生まれた。また、植木鉢に花を描く活動では、絵を描くことが苦手な幼児が、周りの幼児が楽しそうに、しかも夢中で描いている様子を見て、自分から描き始め意欲的に活動することにつながった。

検証保育では、保護者と幼児が多くかかわりあえるような場を設定したり、自分や友達
のよさを発表しみんなで認めあう場を持つことで、幼児が人とかかわることの楽しさを感じ
たり、花に対する親しみや愛情を深めることにつながった。一連の活動の中で、幼児一
人一人のよさを認めあい、そのよさを共感しあうことを大切にしたら結果だと考える。

以上のことから、幼児の興味・関心の対象、意欲の程度、これまでの経験等、様々なこ
とを考慮しながら、教師が、計画・工夫された環境構成や適切な援助を行うことは、幼児
が自分から進んで、身近な人、もの、自然等の身近な環境に豊かにかかわるために大切で
あると考える。

(2) 家庭との連携

「親子苗植え活動」後の保護者の声として「子ども達も花の命の大切さを分かりあえた」
「家でもうれしそうに話していた。大事にする心がお花と一緒に育っていくような気がす
る」等から、保護者が幼児の頑張りやよさを理解し、認め、共感しながら、「育ち」を喜ぶ
思いが読み取れた。

学級通信を通して、保護者に保育のねらいや行事の流れ等を事前に伝え協力を依頼した
り、幼稚園での生活の様子、更に、幼児の育ちや変化等を知らせたことは、保護者自身の
安定感や幼稚園に対する信頼感、また、教師と保護者が幼児の発達や保育を共に考えあ
うことにつながった。

このように、家庭との連携を深めることは、幼児にとって、自分の思いを共感、共有し
てもらえる場が広がり、安定した気持ちをもって、意欲的に活動に取り組むことにつな
がると考える。

成果と課題

1 成果

- 「親子苗植え活動」を身近な環境とのかかわりを大切にしたら一連の活動として計画し援助
の工夫をしたことで、活動に対する幼児の興味・関心は高まり、人や草花等に対するか
かわりを広げ、愛着心をもつことができた。
- 家庭との連携の図り方を工夫したことで、保護者と教師が幼児の思いを丁寧に受け止め、
理解しあい、共感しながら、幼児一人一人の育ちを共に考えていくことにつながった。

2 課題

- 幼児が身近な環境に対して積極的にかかわりを広げ、探求心をより深めていけるように、
教師が幼児一人一人の発達や育ちを見取る力を高める。
- 幼児と保護者、教師が共に育ちあえるような、園行事の計画・実施を図る。
- 家庭との連携を深める方法として、電子メール等の活用を検討する。

《主な参考文献》

「幼稚園教育要領解説」	文部省	フレーベル館	1999
「幼稚園教育指導資料第2集 家庭との連携を図るために」	文部省	世界文化社	1992
「平成10年改訂対応 幼稚園教育要領解説」	森上史朗	フレーベル館	1999
「保育の基本と環境の構成」	神長美津子	ひかりのくに	1998